

新年のご挨拶



天塩町長
吉田 忠

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。昨年は、町政各般にわたり多大なるご理解とご協力を賜りましたこと厚くお礼申し上げます。皆様の日々の暮らしを支える地域活動や健やかに成長することも達の笑顔、努力と工夫を重ねる力強い産業の姿に勇気をいただき、山積する課題に真摯に取り組み、マチづくりへの歩みを進めることができましたこと、心より感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、災害対応や人口減少への対策など、改めて町政の執行の責任の重さを感じる1年でありました。

8月には観測史上最大の記録的大雨に見舞われ、農村地区を中心に土地の浸水や林道の一部崩壊、住宅の床上・床下浸水などの被害を受けました。幸いにも人的被害はございませんでしたが、この度の災害で被害にあられた皆様におきましては、改

めまして心よりお見舞い申し上げます。今回の豪雨災害は、国による「激甚災害」の指定を受けました。町としましても早期復旧に向けて、関係機関と連携しながら対応を進めていきます。

地域が抱える課題に国の職員が伴走支援する「地方創生伴走支援制度」が昨年創設されました。町政を数年経験し、まちの課題も次第に見えてきたところで、本制度の活用に応募したところ、北海道では、数ある自治体の中から本町を含む6町村が選定されました。本町では、3名の方創生支援官（総務省、農林水産省及び財務省）に産業振興や人材確保などの課題解決に向けたご支援とご助言を日々いただいております。限られた期間での支援となりますが、マチづくりに新しい風を吹き込むことに大変刺激を受け、身の引き締まる思いで「地方創生」に向けた施策の検討を重ねております。

昨年春の天塩高等学校の入学者数「15人」という数字に、人口減少と少子化の進行を痛切に感じさせられ

ました。従前は、1学年2間口維持に向けた様々な魅力化施策を推進してまいりましたが、近年は、1学年1間口となりました。地域における高等学校は、若者の流出を防ぎ、地域の人材を育成していく基盤であり、マチの未来をより確かなものとするために必要な存在です。この少子化という難局を乗り越え、地域に高校を残していくために、天塩高等学校存続期成会の活動を再開しました。近隣町や関係機関と連携しながら、天塩高等学校の存続に向けた要望活動を実施しております。

国勢調査が実施されましたが、本市の人口は約2,500人今まで減少し、私が生まれた昭和40年の人口約9,500人と比べ60年間で約1/4の人口となりました。都市部へ人口一極集中や人口減少は、日本全体としての課題ではあります。が、地方創生伴走支援制度を活用する中で、マチづくりにおける「縮充」という考え方を知ることができます。人口減少を受け入れつつ充実したマチづくりを目指す、人口が減つても元気な地域を皆様と作つていかうという考え方です。町民の皆様はもちろん、町外にも本町のマチづくりを応援いただける方々や、専門知識を持つた貴重な人材がござります。関係機関や民間企業と連携したり組みの中で、多くの方々とのつながりを持つことができました。これら多様な外部人材の知見やノウハウを活用すること、地域への流れと関係性を創ることで、地

域の魅力と価値を一層高めることができ、充実したマチづくりが実現できると考えております。地域おこし協力隊制度は、地域の新たな担い手として地域力の充実を図る取組みで、地域の一員として共にマチづくりに取り組めることを心待ちしております。また、多様な外部人材を活用し、その見とノウハウをマチづくりに積極的に取り入れる体制を構築していきたいと思います。

不安定な国際情勢において物価高が長期化する中でも、町の基幹産業である農林水産業は、力強く経営を続けており、生産者の皆様の継承されてきた技術と日々の努力に心より敬意を抱いております。また、夏季に開催されました「天塩川じみまつり」は、数年ぶりに2日間の日程で天塩高等学校とも連携して開催され、町内外から約1万5千人の多くの皆様にご来場いただきました。天塩川河川公園を会場とした本イベントも3回目を迎え、出店者と来場者も年々増加しており、町を代表するイベントとして盛会に開催することができました。多くの皆様の支えと「地域の一体感」を感じられたこと、大変嬉しく思っております。

年も新たな分野で数名の地域おこし協力隊希望者が内定しておりますので、地域の一員として共にマチづくりに取り組めることを心待ちにしております。また、多様な外部人材を活用し、その見とノウハウをマチづくりに積極的に取り入れる体制を構築していきたいと思います。不安定な国際情勢において物価高が長期化する中でも、町の基幹産業も皆様にとつても「陽気」と「勢い」に満ちた実りある一年となることに期待を抱いております。新年は、これまでの決断と実行が実を結び、勢いをもつて前に進める年となりますことを願い、本町の発展と町民の皆様の幸せのために力を尽くしてまいります。新年も変わらぬご支援、ご助言を賜りますようお願い申し上げますとともに、私もマチづくりの基本であります「対話・協働・調和」を銘記し、子どもからお年寄りまで笑顔あふれる優しいマチの実現に向け、不斷の研鑽を重ねる所存です。

結びに、新年が皆様にとって健やかで実り多い年となりますよう心より祈念申し上げます。そして、本町の未来が明るく豊かなものとなりますよう、町民の皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。

新年のご挨拶

の府省と都府県のご協力を得て、全国で署名運動を展開しました。今後も粘り強く取組を続けてまいります。

また、長引く物価高により、道民の皆様の生活や事業者の方々の経営が非常に厳しい状況にある中、累次の経済対策を実施してきており、引き続き必要な対応を進めてまいります。

さらには、様々な環境変化で生じる課題やリスクへの対応が求められた年でした。カムチャツカ半島付近の地震を踏まえた津波避難対策や、青森県東方沖の地震とその後初めて発表された北海道・三陸沖後発地震注意情報への対応、道警察や自衛隊との連携などによるヒグマ対策の強化、養鶏場での高病原性鳥インフルエンザ

泊発電所3号機については、道民の皆様からいただいた声、関係自治体のご判断やご意見、そして道議会でのご議論を踏まえ、熟慮を重ね、再稼働に同意することとしました。原発の安全の追求には終わりはないとの認識のもと、安全対策などを国や北電に申し入れ、道として防災対策に一層取り組んでまいります。

一方、新千歳空港の旅客数が開港以来最多となるなど観光需要が回復している中、北海道のシンボルである道庁赤れんが庁舎が大改修を終え、リニューアルオープンから1か月で10万人以上の方々にお越しいただきました。引き続き北海道の歴史・文化や観光情報の発信拠点として

が国の助成事業に採択され、松前沖と檜山沖が道内初の洋上風力発電の促進区域となるなど、これまでの挑戦が着実に具現化しています。昨年、国は、経済・食料・エネルギーの安全保障に対し戦略的に投資する方針を掲げましたが、こうした分野で我が国をリードできるのが、まさに北海道です。新しい年は、この追い風を捉え、北海道の未来への戦略を描き、本道の存在感を一層高めていきたいと考えています。

地球規模の気候変動により頻発する自然災害など様々なリスクから道民の皆様の命と暮らしを守ることを最優先としつつ、ゼロカーボン北海道の先を見据え、地域との共生を前提とした良質な投資を呼び込み、環

間もなく、ミラノ・コルティナ冬季オリンピック・パラリンピックが開幕します。本道ゆかりの選手の活躍を心より願っています。

北海道という挑戦の大地で生まれ、成長に向けて灯してきた希望の種火を、皆様と大切に大きく育てて、いくために全力で取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願ひ申し上げます。

本年が、皆様にとりまして大きな飛躍の年になりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶いたします。



北海道知事
鈴木 直道

新年明けましておめでとうございます。皆様には、日頃より道政の推進にご理解とご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

エンザの防疫措置に取り組んだ(ほか、諸外国の政策変更によるグローバルリスクにも対応してまいりました)。

の集積への動きも急速に進み、ラップダス社の次世代半導体については4月にパイロットラインが稼働し、3か月後にはメイドイン北海道の基盤を立ち上げることになる。

農林水産業については、生産力向上と持続的発展を両立させ、食料供給地域としての役割を果たすとともに

境と経済の好循環の実現を目指すとともに、グローバルな視点に立ち、市町村の特色ある取組を支援し、本道が未来に向けて成長することで、日本の発展にも貢献していきます。

地域の課題解決や新たな産業創出に向けては、半導体やデータセンターやリガード、北海道を実証フィールドとしてA-Iの活用を積極的に推進

本年もよろしく
お願ひします

天塩町	町長	吉田 忠
	副町長	銚田 剛
町議会	議長	横山 敦
	副議長	渡辺 修勝
	議員	菊地 敏
	議員	草刈 幸男
	議員	山本 春光
	議員	後藤 忽
	議員	石山 直継
	議員	桑田 孝彦
	議員	長山志津子
町立病院	病院長	橋本 伸之
教育委員会	教育長	西村 聰
農業委員会	会長	奥山 稔
選舉管理委員会	委員長	ほか職員一同
監査委員	委員	岸山 久美子
	委員	ほか職員一同
固定資産評価審査委員会	委員長	高橋 泰史
	委員	石山 直継
委員長	岸山 清隆	ほか職員一同